

③ 経過期間

1年未満 _____ 名 1年以上3年未満 _____ 名
 3年以上5年未満 _____ 名 5年以上10年未満 _____ 名
 10年以上 _____ 名

Ⅲ. 失語症者のリハビリテーションについて

1. 失語症者に対するサービス内容

下記の「基礎疾患の診断・治療」から「その他」のサービス内容の実施状況について、a～dの該当する箇所にしをつけてください。

- a. 力を入れて行っている
- b. 若干行っている
- c. 現在は特に行っていないが、将来的に行う
- d. 特に行っていないし、将来行う計画もない

サービス内容	a 力を入れている	b 若干行っている	c 将来的に行う	d 特にない
基礎疾患の診断・治療				
失語症の診断・評価				
失語症の言語治療				
認知リハビリテーション				
精神療法・心理療法				
自立生活のための訓練・支援				
職業復帰のための訓練・支援				
社会的資源の利用相談				
当事者家族、周囲の人への指導				
生活場所の提供				
その他				

手帳制度

① 取得者 _____ 名 ② 非取得者 _____ 名（非該当者 _____ 名、未申請者 _____ 名）

① 取得者の内訳

身体障害者手帳

1級 _____ 名 2級 _____ 名 3級 _____ 名

4級 _____ 名 5級 _____ 名 6級 _____ 名

精神障害者保健福祉手帳

1級 _____ 名 2級 _____ 名 3級 _____ 名

療育手帳

A _____ 名 B _____ 名

自立支援法

① 受給者 _____ 名 ② 非受給者 _____ 名（非該当者 _____ 名、未申請者 _____ 名）

① 受給者の内訳

介護給付 _____ 名

訓練等給付 _____ 名

地域生活支援事業 _____ 名

2. 社会復帰状況

失語症者の社会復帰状況について調べている場合に記入してください。

調査年月日：西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日 調査対象者数：合計 _____ 名

障害内容	調査 人数 計	職業復帰			就労支 援機関 利用 【注1】	家庭復帰		福祉施 設等を 利用 (入所) 【注3】	医療 機関 へ入 院中	その 他※	不明
		原職 復帰	配置 転換	職場 転換		福祉施設 等を利用 【注2】	福祉施設 等の利用 なし				
失語症	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名

※「その他」について、可能な範囲で例をお挙げください。

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

別紙4

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
中島八十一、 寺島彰	リハビリテーションマニュアル22	諏訪基	高次脳機能障害者支援の手引きII	国立身体障害者リハビリテーションセンター (WHO指定研究協力センター)	埼玉	2008年2月(実際の発刊は平成21年度)	
Nakajima Y, Terashima A	Rehabilitation Manual 22	Suwa M	Guide to Support for Persons with Higher Brain Dysfunction II	National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities, Japan (WHO Collaborating Centre)	Saitama	Feb. 2008 (issued in fiscal year of 2009).	
河野 豊 永田博司	ボツリヌス毒素製剤治療を行う疾患(眼瞼痙攣、痙性斜頸、片側顔面痙攣)	山田勝士	病気と薬 パーフェクトBOOK	南山堂	東京	2009	778-782
河野 豊 永田博司	手根管症候群	山田勝士	病気と薬 パーフェクトBOOK	南山堂	東京	2009	828-830
河野 豊 林 明人	片側顔面痙攣の治療法選択は、	岡本幸市、 棚橋紀夫、 水澤英洋	2009-2010 EBM 神経疾患の治療	中外医学社	東京	2009	347-350
河野 豊	ベル麻痺(顔面神経麻痺)	落合滋之(監修)、 森田昭夫、 吉澤利弘(編集)	脳神経疾患ビジュアルブック	学研	東京	2009	229-232
河野 豊	三叉神経痛.	落合滋之(監修)、 森田昭夫、 吉澤利弘(編集)	脳神経疾患ビジュアルブック	学研	東京	2009	229-232
河野 豊	圧迫性神経障害(手根管症候群、肘部管症候群)	落合滋之(監修)、 森田昭夫、 吉澤利弘(編集)	脳神経疾患ビジュアルブック	学研	東京	2009	229-232
河野 豊	進行期の治療 Diphasic dyskinesiaの内容について教えてください。また発症機序と対処法は？	水野美邦(編集)	パーキンソン病診療 Q&A 110	中外医学社	東京	2009	210-211

深津玲子	多発性筋炎		今日の整形外科治療指針第6版	医学書院		2009 (印刷中)	
深津玲子	多発ニューロパチー		今日の整形外科治療指針第6版	医学書院		2009 (印刷中)	
深津玲子	Charcot-Marie-Tooth病		今日の整形外科治療指針第6版	医学書院		2009 (印刷中)	
深津玲子	発達障害		社会福祉学習双書(全15巻)／第14巻「医学一般」	全国社会福祉協議会		2009	p. 129-130
深津玲子	高次脳機能障害		社会福祉学習双書(全15巻)／第14巻「医学一般」	全国社会福祉協議会		2009	p. 130-131
深津玲子	G. 高次脳障害		精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー第1巻／医学一般—人体の構成と機能および疾病	株式会社へるす出版		2009	p. 211-216
深津玲子	III 基本症候と責任病変 B.言語の障害 視床性失語と線条体失語		脳血管障害と神経心理学第2版	医学書院	東京	2009 (印刷中)	
深津玲子	診断基準	昭和大学医学部内科学講座神経内科学部門教授 河村満	急性期から取り組む高次脳機能障害リハビリテーション	株式会社メディカ出版	大阪	2009	p. 8-15
深津玲子	発達障害		社会福祉学習双書2010(全15巻)／第14巻「医学一般」	全国社会福祉協議会		2009	p. 127-128
深津玲子	高次脳機能障害		社会福祉学習双書2010(全15巻)／第14巻「医学一般」	全国社会福祉協議会		2009	p. 128-129

八田武志, 間瀬光人, 蒲澤秀洋, 深川和利, 日比野新, 白滝龍昭, 長野友里, 阿部亜紀子, 西出有輝子, 相澤亜由美		間瀬光人, 阿部順子	認知機能回復のための訓練指導マニュアル	メディカ出版	大阪	2009	
蒲澤秀洋	脳外傷後遺症による高次脳機能障害の実情	(財)日弁連交通事故相談センター専門委員会	交通事故損害額算定基準—実務運用と解説—2010	(財)日弁連交通事故相談センター	東京	2010	331-354
阿部順子	心理的リハビリテーション、障害認識、身体像	伊藤敏之, 京極高宣, 坂本洋一, 中村隆一, 松井亮輔, 三澤義一	リハビリテーション事典	中央法規	東京	2009	172-177
阿部順子	6. 実践から制度・施策への展開、7. 当事者・家族と専門家の役割、13. 学びのプロセスを伝える養成研修	大曾根寛	現代の福祉政策—担い手の役割と責任—	放送大学教育振興会	東京	2010	93-122、203-219
鈴木真	周囲に働きかける就労支援、離職者の支援	日本福祉士会	ソーシャルワーク視点に基づく就労支援実践ハンドブック	中央法規	東京	2010	158-159 180-181
長野友里	軽度脳外傷者の自己認識訓練	中島恵子	高次脳機能障害のグループ訓練	三輪書店	東京	2009	73-84
Shinoda J, Asano Y	Evaluation and management of com a patients	In Kalangu KKN, Kato Y, Decham benoit G (ed)	Essential Practice of Neurosurgery	Access Publishing	Nagoya	2009	51-66
岡崎哲也	高次脳機能障害の評価と指導	蜂須賀研二, 佐伯覚	実地医家に役立つリハビリテーションの知識と技術	医薬薬出版株式会社		200906	78-88
高橋真紀, 佐伯覚, 蜂須賀研二	FAI	赤居正美	リハビリテーションにおける評価法ハンドブック—障害や健康の測り方—	医歯薬出版株式会社		200909	249-252
佐伯覚, 増田公香	CHART、CIQ		リハビリテーションにおける評価法ハンドブック—障害や健康の測り方—	医歯薬出版株式会社			253-260
太田令子	就労・復職をめざす人たちにための集団訓練	中島恵子	高次脳機能障害のグループ訓練	三輪書店		2009/10/10	p102- 121

種村純		種村純, 椿 原彰夫	教材による認知 リハビリテーシ ョンーその評価 と訓練法	永井書店	大阪	2009	
-----	--	---------------	---------------------------------------	------	----	------	--

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Komatsu, T., Hata, N., Nakajima, Y., Kansaku, K.	A non-training EEG-based BMI system for environmental control.	Neurosci Res	61	S251	2009
Takano, K., Komatsu, T., Hata, N., Nakajima, Y., Kansaku, K.	Visual stimuli for the P300 brain-computer interface: a comparison of white/gray and green/blue flicker matrices.	Clinical Neurophysiology	120	1562-1566	2009
中島八十一	高次脳機能障害者の実態と自立支援	公衆衛生	73 (6)	417-421	2009
中島八十一	オーバerview: 社会的行動障害と高次脳機能障害支援	Clinical Rehabilitation	18 (12)	1066-1071	2009
中島八十一	入門 リハビリテーション科学研究② 《実践的リハ科学研究の展開の仕方-1》高次脳機能障害における各種リハ研究の場合	リハビリテーション研究	140	38-42	2009
中島八十一	高次脳機能障害の現状と課題	日本リハビリテーション病院・施設協会誌	121	10-15	2009
Ishimori Y, Monma M, Kohno Y	Artifact reduction of susceptibility-weighted imaging using a short-echo phase mask.	Acta Radiol.	50	1027-34	2009
Kadota H, Nakajima Y, Miyazaki M, Sekiguchi H, Kohno Y, Kansaku K.	Anterior prefrontal cortex activities during the inhibition of stereotyped responses in a neuropsychological rock-paper-scissors task.	Neurosci Lett.	453	1-5	2009
Kadota H, Nakajima Y, Miyazaki M, Sekiguchi H, Kohno Y.	An fMRI study of musicians with focal dystonia during tapping tasks.	Journal of Neurology	in press	in press	2010
河野 豊 関口浩文 門田 宏 竹内成生 上野友之 永田博司 中島八十一	経頭蓋磁気刺激を用いた Mirror Therapy における皮膚脊髄経路の興奮性に関する検討	臨床神経生理学	37	353	2009

関口浩文 竹内成生 門田 宏 河野 豊 中島八十一	脳波電極リード線の再配置によるTMS-EEG の効果的なアーチファクト減弱法.	臨床神経生理学	37	365	2009
深津玲子	高次脳機能障害	Clinical Neuroscience	27(No.9)	p. 1007-1009	2009
白山 靖彦	高次脳機能障害家族の介護負担に関する諸相-社会的行動障害の影響についての量的検討-	社会福祉学	51巻1号	未定	2010
阿部順子	社会的行動障害をもつ患者の社会復帰支援	クリニカルリハビリテーション	18巻12号	1094-1101	2009
阿部順子	高次脳機能障害の障害認識とはどのようなものか	放送大学open forum	第6号	156-157	2010
篠田 淳	核医学検査. 脳・神経・脊髄イラストレテッド -病態生理とアセスメント-	月刊ナーシング	4増刊号	192-195	2009
Matsunaga M, Isowa T, Kimura K, Miyakoshi M, Kanayama N, Murakami H, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J, Konagaya T, Kaneko H, Ohira H	Associations among positive mood, brain, and cardiovascular activities in an affectively positive situation	Brain Res	1263	93-103	2009
Nakao T, Osumi T, Ohira H, Kasuya Y, Shinoda J, Yamada J	Neural bases of behavior selection without an objective correct answer	Neurosci Lett	459	30-34	2009
Ohira H, Fukuyama S, Kimura K, Nomura M, Isowa T, Ichikawa N, Matsunaga M, Shinoda J, Yamada J	Regulation of natural killer cell redistribution by prefrontal cortex during stochastic learning	Neuroimage	47	897-907	2009
Ohira H, Ichikawa N, Nomura M, Isowa T, Kimura K, Kanayama N, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J	Brain and autonomic association accompanying stochastic decision-making	Neuroimage	49	1024-1037	2010

藤岡真紀、溝口秀男、杉山綾子、出谷京子、森本幸二、塩屋博史、渡邊学、鈴木恒彦、久保範明、中森靖	三次救命救急センターにおける急性期リハビリテーション	大阪府立急性期・総合医療センター医学雑誌	31	21-24	2008
出谷京子、山中緑、藤岡真紀、杉山綾子、岸本昌子、渡邊学、鈴木恒彦、中森靖、毛利智好、松田宏樹	脳外傷により高次脳機能障害を呈した10歳児のリハビリテーションの一例	大阪府立急性期・総合医療センター医学雑誌	31	61-63	2008
丸石正治	社会的行動障害の診断と評価	Clinical rehabilitation	18	1072-1079	2009
岡崎哲也	障害者自立支援法・障害程度区分認定 医師意見書 ①身体障害—外傷性脳損傷	J Clin Rehabil	17;12	58-63	200912
太田令子	高次脳機能障害の子どもを支える—ハイリハキッズの取り組み—	ノーマライゼーション	vol. 29 no. 5	62-64	2009/5
太田令子	知られていない障害—高次脳機能障害—	発達教育	vol. 28 no. 8	3	2009/8
大沢愛子, 前島伸一郎, 川原田美保, 太田信子, 種村純	認知症診断におけるspecific volume of interest analysis(SVA)と日常診察の重要性	総合リハビリテーション	37巻4号	357-362	2009
用稲丈人, 狩長弘親, 山本陽子, 八木真美, 種村純	脳損傷者に実施した遂行機能障害症候群の行動評価(BADS日本版)成績による遂行機能障害の因子分析的検討	高次脳機能研究	29巻2号	247-255	2009
爲季周平, 阿部泰昌, 山田裕子, 林司央子, 種村純	Action disorganization syndrome (ADS)を呈した脳梁離断症候群の一例	高次脳機能研究	29巻3号	348-355	2009
宮崎泰広, 種村純	失語症者における名詞と動詞産生について Broca失語とWernicke失語の比較	言語聴覚研究	6巻3号	144-151	2009
種村純	失語症の臨床から、ことばの意味知識の障害	心理学ワールド	47号	13-16	2009

用稲丈人, 種村純	Raven's Progressive Matricesのクラスター分析と尺度構成	高次脳機能研究	29巻4号	386-398	2009
宮崎泰広, 種村純	半側空間無視例におけるメトロノームによるリズム聴覚刺激の効果	高次脳機能研究	29巻4号	415-425	2009
種村純	【高次脳機能障害Q&A】 「遂行機能障害」と「ワーキングメモリー障害」との関連を教えてください	Modern Physiological	30巻1号	129-132	2010

IV. 研究成果の刊行物・別刷

GUIDE TO SUPPORT FOR PERSONS
WITH HIGHER BRAIN
DYSFUNCTION II

Editor
MOTOI SUWA



NATIONAL REHABILITATION CENTER
FOR PERSONS WITH DISABILITIES
JAPAN

(WHO COLLABORATING CENTRE)

February 2008

The National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities was designated as the WHO Collaborating Centre for Disability Prevention and Rehabilitation in 1995. Terms of Reference are:

- 1 To undertake research and development of medical rehabilitation for persons with disabilities (PWDs), and to disseminate information on the use of such technology through education and training of WHO fellows and other professional staff.
- 2 To undertake assessment of existing technology which facilitates the independence of people disabilities, and to disseminate such information on technology through education and training.
- 3 To undertake studies of community-based rehabilitation (CBR), primary health care, and other social support systems for PWDs..
- 4 To undertake research and development of affordable assistive technologies in collaboration with PWDs.
- 5 To prepare manuals for education and training of professionals in health, medical and welfare services for PWDs.
- 6 To support organization of conference and/or seminars on rehabilitation of PWDs.

National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities
WHO Collaborating Centre for Disability Prevention and Rehabilitation

Rehabilitation Manual 22

Guide to Support for Persons with Higher Brain Dysfunction II

February 29, 2008

Editor: Motoi SUWA

© National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities

Tsutomu Iwaya, M.D., Ph.D., President

4-1, Namiki, Tokorozawa City, Saitama Prefecture 359-8555, Japan

Tel. 81-4-2995-3100

Fax. 81-4-2995-3102

E-mail:whoclbc@rehab.go.jp

PREFACE

The purpose of this manual is to explain, in detail, the standard rehabilitation, livelihood support and care programs available for persons with higher brain dysfunctions and present this as a sequel to the "Guide to Support for Persons with Higher Brain Dysfunction I" published in December 2006.

As a sequel to the "Guide I" which uses a medical model to describe diagnosis and rehabilitation, the "Guide II" describes ways to support persons with higher brain dysfunctions from the standpoint of assistive technologies and systems, etc. involving the use of a welfare model which can help them achieve social independence. More specifically, the "Guide II" describes various ways to support persons with higher brain dysfunctions in the chronic phase or in the fixed phase in order to achieve social independence (depending on the characteristics and the degree of severity of their disabilities). It also describes the various support networks available, which enable them to achieve social independence.

Persons with higher brain dysfunctions require a correct diagnosis and the provision of medical rehabilitation services that suit their disabilities. A series of training programs for daily living and vocational training programs will help them achieve an independent lifestyle within a society in which they may often encounter difficulties.

I hope that this manual will be used for the practice and improvement of skills by professionals engaged in the rehabilitation, livelihood support and care of persons with higher brain dysfunction.

I also sincerely hope that these two manuals will contribute to the independent living and employment of as many persons with higher brain dysfunctions as possible and assist the achievement of their social independence.

M.SUWA

EDITOR

Motoi SUWA

National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities

CONTRIBUTORS

Yasoichi NAKAJIMA

National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities

Akira TERASHIMA

Faculty of Comprehensive Welfare, Urawa University

CONTENTS

Preface	
Editor / Contributors	
Introduction	
I Planning and Implementation of Support	1
1 Consultation Service	1
2 Application for Support	2
3 Support Needs Survey and Formulation and Implementation of the Support Program	2
4 Content of Support Services and Target Persons	2
II Consultation	8
1 Principle of Casework	8
2 Consultations and Interviews with Persons with Higher Brain Dysfunctions	9
3 Key Points regarding the Provision of Support Services	9
III From Application for Support to Support Needs Survey and Formulation and Implementation of the Support Program	12
1 Application for Support	12
2 Acceptance of the Application	13
3 Support Needs Survey	13
4 Request for and Implementation of Evaluation	14
5 Support Program Formulation Committee and Determination of the Support Program	14
6 Review of the Support Program	16
7 Notification of the Support Program	16
8 Implementation and Reevaluation of the Support Program	16
9 Service Use Contract concerning Support for Persons with Higher Brain Dysfunctions	17
10 Completion of the Support Program	17
IV Environmental Coordination Support and Livelihood, Care and Family Support	18
1 Environmental Coordination Support	18
2 Life and Care Support	20
3 Family Support	23
Reference	26
Materials	27

Introduction

This manual is a sequel to the "Guide to Support for Persons with Higher Brain Dysfunction I". It is necessary to correctly diagnose higher brain dysfunctions at hospitals, implement medical rehabilitation programs that suit individual disabilities, and implement training programs for social skills and vocational training programs that complement each other seamlessly in order to ensure that persons with higher brain dysfunctions will be able to live independently within the society.

As a sequel, this manual describes, in detail, various ways to support persons with higher brain dysfunctions in the chronic phase or the fixation phase achieve social independence (depending on the characteristics and the degree of severity of their individual disabilities).

Support Coordinators with professional skills and the ability to coordinate support programs and provide assistance are necessary to ensure that various support programs such as clinical rehabilitation, social and vocational rehabilitation and local welfare services are offered depending on the situation and needs of persons with higher brain dysfunctions. This is achieved through the organic and effective division of roles, with Support Coordinators providing consultation services for the client and his/her family, etc., offering advice, and serving as a bridge between the client and his/her family and the appropriate supporting organizations. They also formulate a support program and coordinate ongoing support programs, as appropriate, while offering advice whenever they are consulted by municipal governments and welfare institutions.

I Planning and Implementation of Support

Figure 1 illustrates procedures for rehabilitation into society, livelihood support and care programs.

1 Consultation Service

The Support Coordinator shall engage in the following activities. The Support Coordinator shall;

- 1) Listen to a client or counseling organization in order to identify needs
- 2) Determine with or without higher brain dysfunctions, based on information obtained from a client and his/her family, medical certificates, referral forms and written opinion.
- 3) Determine whether identified needs arise from higher brain dysfunction or not.
- 4) Advise a client to apply for support if the Support Coordinator has decided